

《調査報告》

## 実践報告 金沢工業大学視察

田中 一裕 (新潟大学)

金沢工業大学は、「高邁な人間形成」「深遠な技術革新」「雄大な産学協同」を三大旗標として掲げ、大学と大学院を有し、総定員 6000 人を抱え、工学部、情報フロンティア学部、建築学部、バイオ・化学部の 4 学部構成で専門分野の教育を担っている。

特に注目される「教育付加価値日本一の大学」という評価は、どのような教育・研究から実現されているのか。視察とインタビューから、分析・考察をおこなう。

キーワード：初年度教育 教員組織 教育環境

### 1. はじめに

1957 年北陸電波学校の創設以後、北陸電波高校開校を経て、1965 年金沢工業大学として開学した。当初は工学部機械工学科、電気工学科の 1 学部 2 学科としてスタートしたが、1978 年には大学院工学研究科が、2004 年には環境・建築学部、情報フロンティア学部を、2008 年にはバイオ・化学部を開設するなど、北陸地方における理系複合大学として発展している。

近年の少子化、大学経営の困難な時代に、地方の私立大学という立地の悪さにもかかわらず、全国より多くの学生を集め、大変高い評価を受ける学生として、卒業時には就職率も良く、他の大学などから注目を集めている。

金沢工業大学への視察に先立ち以下の質問を事前にお送りして、その質問に答えていただく形式でインタビューを実施した。またインタビュー後には、大学の施設見学をさせていただき、その教育・研究環境の優れたところを視察することができた。

### 2. 質問項目

質問として依頼した内容から、本報告で取りあげた質問項目は次のとおりである。当日のインタビューには、出原立子情報フロンティア学部メディア情報学科教授が答えてくださった。

- ① 具体的な進路指導体制、学部全体、学生個人などに対して
- ② 担任制の具体的指導内容、年間の面談回数、担当学生の成績の把握と指導内容、方法
- ③ 新入学年に対するオリエンテーションの内容、方法、

時間など

- ④ 入試と学生の学力のバラツキへの対応
- ⑤ 学習場所問題

### 3. インタビューの内容

インタビューの内容について全てを掲載することができないため、個人的に重点をおいた点のみについて考察する。

質問内容「① 具体的な進路指導体制、学部全体、学生個人などに対して、②担任制の具体的指導内容、年間の面談回数、担当学生の成績の把握と指導内容、方法」の回答について、まず①では、学部全体で、学生一人一人に対する学習や生活上での支援が整っている点があげられる。学生一人一人の学習状況や生活の様子などを常にチェックしており、つまづきなどの初期の段階においての支援が大変効果的であると考え。

「②の担任制」について、入学生全てを少数の担任が責任を持って指導する体制ができている。面談の回数も多く、学生と教員の関係を構築するうえで、必要なシステムであると感じた。

「③新入生オリエンテーション」では、宿泊合宿の形態を取って学生間のアイスブレイクを中心に実施しているという。創生学部では、土日 2 日間を中心に宿泊ではない形式で、内容としても大学側からの学業や生活面などの注意点がほとんどの内容となっており、アイスブレイクを意識した内容は全く入っていない。学生間の交流を円滑にするためにも、教員側がこのような正式なオリエンテーションの場において、アイスブレイクなどを取り入れて行くことが必要になると言える。

「④入試と学生の学力のバラツキへの対応について」

では、学生への学習支援として特筆する取り組みとして、「数理工教育研究センター」組織があげられる。このセンターは建物の4階・5階に数学・物理・化学・生物に関する質問や相談などに「チューター」と呼ばれる個別指導教員が常駐している。高等学校の教務室のようなスペースに教員がおり、飛び込みで入ってきた学生に対しても指導をおこなっている。また、センター手作りの問題集やe-ラーニング教材なども豊富で、また多様な教材をwebでも公開し、高校生などにも多く利用されている。

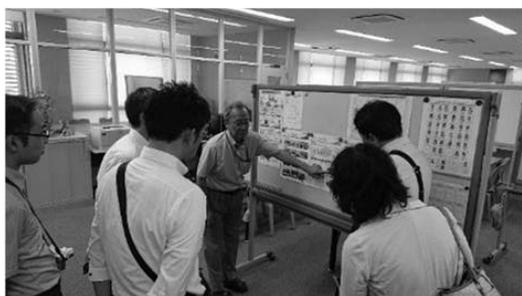


写真1 数理工教育研究センター

また、基礎英語教育センターにおいても、英語に関する個別指導や、会話中心のEnglish Lounge、セミナー形式のMini-workshopを定期的で開催し、webではKIT English Podcastsによるリスニング強化、2泊3日の英語漬けキャンプなどの課外活動も企画する。英語に関する基礎的なところから、留学生への対応まで一手に英語に関する学生支援を担っている。

「⑤学習場所問題」について、まず充実している環境として、12階建てのライブラリーセンターは、それぞれの階が専門分野に分かれて蔵書が収められている。また学習支援デスクでは、各分野のSLと呼ばれるサブジェクトライブラリアン (Subject Librarian) が常駐しており、学習支援デスクで学習相談やレファレンスだけではなく、専門基礎科目支援を行っている。この支援は、SL及び科目担当教員が協同で担当しており、各科目の理解度に合わせて学生が理解できるまで丁寧に指導をおこない、必要に応じて数理工教育研究センターとも連携して指導にあたっている。また、3階にはグループ学習室が複数用意されており、多様な講義や講演会などにも対応することが可能となっている。



写真2 グループ学習室



図3 ライブラリーセンター内

次に充実している施設として24時間冷暖房完備で、大変広く明るく清潔な自習室である。大きな机と電源タップなど個人でも集団でも利用することが可能であり、多くの学生が利用している。



写真5 24時間自習室

また、プロジェクト教育センター・夢考房は、年間320日、平日は21時、土日は17時まで開館しているものづくりのための安全や装置機器の取り扱い講習会を年間300回実施するなど、ものづくりに対する基礎と情熱を育成する施設である。

また、アントレプレナーズラボは、学生と企業、地域住民とともにイノベーションに向けた取り組みをおこなう充実した施設である。

#### 4. まとめ

昨年度視察をおこなった昭和大学においても学生に対する支援を、特に初年度教育に集中させており、金沢工業大学の初年度教育に対する手厚さは、教員の積極的な支援、充実した学習環境の設定などとともに、これまでの教育におけるノウハウから一つずつ積み重

ね改良し続けた結果、学生を主体とする総合的な学習環境が実現されており、学生の学習力を押し上げている重要な要因となっていると考えられる。特に、学習支援に対する人的なサポートネットワークは、それぞれの教員の熱意と努力により構築されており、学生を育てるヒントがここにあると考える。